

JAPANブランド支援事業について

中小企業庁

1. JAPANブランド育成支援事業

事業概要

平成24年度予算 3.9億円（平成23年度予算 5.9億円）

中小企業の新たな海外販路の開拓につなげるため、複数の中小企業が協働し、自らの持つ素材や技術等の強みを踏まえた戦略の策定支援を行うとともに、それに基づいて行う商品の開発や海外展示会出展等の取組に対する支援を実施する。

支援対象は商工会、商工会議所、組合、NPO法人等。

支援内容

地域の産品や技術の魅力をさらに高め、世界に通用するブランド力の確立を目指す取組に要する経費の一部を補助。

【戦略策定段階への支援】補助率：定額、補助上限額：500万円

地域の強み・弱みなどを分析し、明確なブランドコンセプトと基本戦略を固めるため、専門家の招聘、市場調査、セミナー開催などを行う取組に対して支援を実施。

【ブランド確立段階への支援】補助率：2／3、補助上限額：2,000万円

中長期的な視野に立ったブランド確立への取組を支援するため、専門家の招聘、新商品開発、展示会出展等を行うプロジェクトに対し、最大3カ年に亘って支援を実施。

実績（平成24年5月末時点）

☑支援プロジェクトの累計：272件

JAPANブランド 主な採択プロジェクト実績①

YAMANAKAブランド (NUSSHA) (山中商工会)

山中漆器の伝統技術を活かして、欧州市場をターゲットとした新たなブランド「NUSSHA」を開発。

- ・石川県にある山中温泉には、400年の歴史に培われた山中漆器の技術が存在。
- ・伝統的な漆器の技術を活かしつつ、欧州市場向けにモダンなデザインや、カラフルな色遣いを取り入れたテーブルウェア等を開発。デザインとプロデュースは、欧州市場のニーズに詳しく、イタリア・ミラノに拠点を持つデザイナー富田一彦氏が担当。
- ・フランスの国際見本市「メゾン・エ・オブジェ」での評価も高く、欧州のインテリアショップやミュージアムショップ等を中心に商品を販売中。



↑欧州向けに開発された、デザインと色遣いに特色のあしたカラフルで装飾性の高いシリーズ

KYOTO PREMIUM (京都商工会議所)

和の伝統的な素材や技術の良さを活かしつつ、欧州のライフスタイルに合った商品を開発。

- ・京都には、西陣織や友禅染などをはじめとして、伝統的な素材や技術が数多く存在。
- ・これらの素材の美しさや技術力の高さは、欧州でも高く評価されるものの、そのまま着物地として売り出すことは困難。そこで、現地のライフスタイルに合った「クッション」というアイテムに展開して売り出したところ、ロンドンの有名百貨店「リバティ」のバイヤーに注目され、取引が成立。
- ・クッションの他にも、ステーションナリーやアクセサリーなど、現地でも受け入れられやすいアイテムを開発し、意欲的に販路開拓に取り組んでいる。



↑かんざしに使われる「つまみ細工」の指輪



↑巻物状のグリーティングカード



↑鮮やかな錦織の生地で仕立てたクッション

JAPANブランド 主な採択プロジェクト実績②

◆ 山形工房／山形商工会議所(山形県)

世界的に著名な工業デザイナー(奥山清行氏)をプロデューサーに迎え『山形工房』の統一ブランドを立ち上げ、鋳物・木工・繊維分野における新製品開発を実施。

フランスの国際見本市「メゾン・エ・オブジェ」で最もハイグレードなコーナーに出展。バイヤー等から高い評価を得るとともに、メディアからも高い注目を集めている。



◆ あわじ島の香司／淡路市商工会(兵庫県)

日本古来のお線香を発展させ、生活シーンを豊かに演出する新しい香—Kosai Aroma (香彩芳香)—を提案。



「香司(香を司る者)」と呼ばれる香のマイスターにより、アロマテラピー効果の高い新たなお香を開発。国内市場やフランス市場を目指し、一流百貨店「ボン・マルシェ」等への販売ルートを構築。



◆ KAMO traditional WOOD Japan／加茂商工会議所(新潟県)

高い技術力を誇る伝統的工芸品の加茂桐箆笥の素材を活かしつつ、プロダクトデザイナー岩倉榮利氏による伝統とモダンを融合させたデザインにより新しい魅力の商品を開発。

現代の生活に合わせたデザインで製作されたテレビボードが2006年度グッドデザインアワードで日本商工会議所会頭賞を受賞。



◆ “enn”ブランド／燕商工会議所(新潟県)

日本最大のステンレス食器産地が地域伝統の鋳起銅器と融合。防汚効果の高い最新の加工技術「エコクリーン」を活用した漆塗りのステンレス食器を開発。和のテイストを取り入れた銅器との組み合わせによる新たな洋食器のブランドを構築。



◆ 今治タオルプロジェクト／今治商工会議所(愛媛県)

ブランディングプロジェクト・クリエイティブディレクター



にアートディレクターの佐藤可士和氏を起用。国内最大のタオル産地である今治から、質へのこだわりと使い心地を重視した、人にやさしい安心・安全なタオルを提案している。



◆ BITOWA／会津若松商工会議所(福島県)

400年の時に磨き上げられた会津塗の伝統と、デザイナー・塚本カナエ氏の研ぎ澄まされた感性との出会いにより生み出された美しい和のブランド『BITOWA(ビトワ)』。

「ホテルライクで上質な生活」をコンセプトに“上質な日常”を演出する家具や小物を提案。

現代日本の高い美意識・しなやかな感性を“BITOWA”というメッセージ

にのせて会津から世界に向けて発信する。

